

New Horizon 第17回 Lessons

Lesson 17-1 : 様々なフレーズ⑱

1. make a speech = スピーチをする / スピーチを作る

<例> I made a speech about my hero. <私は私のヒーロについてのスピーチをしました>

〔補足説明〕

make a speech の代わりに give a speech という表現もある。make a speech の場合「スピーチをする」という意味だけでなく「スピーチを作成する」という意味でも使うことができるため「スピーチをする」とはっきりさせたい場合は、give a speech が使われることが多い。また「～についてのスピーチ」という場合、speech about ~ だけでなく speech on ~ もよく使われる。

<例> He gave a speech on his work. <彼は、彼の仕事についてのスピーチをしました>

2. as ~ = ~として

<例> She works as a doctor. <彼女は医者として働いています>

〔補足説明〕

as には様々な意味があるが、ここで使われるのは「~として」という意味の前置詞。

3. in need = 困窮している / 貧乏している / 困っている

<例> This food is for people in need. <この食べ物は、困っている人たちのためのものです>

〔補足説明〕

people in need / children in need など“人 + in need”の形で使われることが多い。

4. others = 他の人たち (の一部) / 他の (複数の) モノ

<例> I want to help others. <私は他の人たちを助けたいです>

〔補足説明〕

英語では「他の」(形容詞)という場合、他のもの/人が1つの場合は、another、複数の場合は other が使われる。つまり“another + 単数”“other + 複数”となる(「1つの other = an other」なので another は、1つと覚えるとよい)。

<例> We can go to another store. (私たちは、別のお店にいけます (1店舗を想定))

We can go to other stores. (私たちは、別のお店にいけます (複数のお店を想定))

そして、others と other に s がついた形は「代名詞」となり「他の人たち / 他の（複数の）モノ」という意味になる（「他の人たち」という意味で others を使う場合は、other people と言い換えられ場合が多い）。

<例> 私は他の人たちを助けたいです。

I want to help others. / I want to help other people.

5. listen to ~ = (音楽などを) 聴く / ~に耳を傾ける / (誰かの言うことを) 聞く

<例> Listen to me. <私の言うことを聞いて>

Don't listen to the music. <音楽を聴かないで>

【補足説明】

「聞く」という単語には、listen (to ~) / hear の2種類の単語がある。listen は「ラジオ」「スピーチ」など「耳を傾けて聴こうとする」という意味なのに対し、hear は「チャイム」「雷」など「自然と耳に入ってきた」という意味となる。

また「ラジオを聴く」という場合は、listen to the radio を基本的に the radio となる。

Lesson 17-2 : 文の途中に入る副詞 (疑問文・否定文)

ここでは、usually / sometimes / also といった文の途中に入る副詞を「疑問文」「否定文」に足す方法について学んでいきます。ここで登場する副詞は「文の種類 (be動詞の文、一般動詞の文、助動詞の文) によって足される場所が違う」という特徴をもっています。そのため、まずは確認の意味も含めて肯定文の時の足し方について復習して (助動詞につきましては初めて学んで) いきましょう。

【肯定文】

be動詞の肯定文 = be動詞の後に足される。

<例> They are usually busy. (彼らはたいてい忙しいです)

一般動詞の肯定文 = 一般動詞の前に足される。

<例> We sometimes play soccer. (私たちは、時々サッカーをします)

助動詞 (canなど) の肯定文 = 助動詞の後に足される。

<例> He can also speak Japanese. (彼は、日本語も話せます / 彼も日本語が話せます)

【疑問文】

疑問文では、文の種類に関係なく

まず副詞を足した形で肯定文を作り、それを疑問文にすれば完成

となります。つまり、be動詞の文であれば、副詞を足したbe動詞の肯定文を作り、その後でbe動詞を文頭に持ってくれば完成。一般動詞の文であれば、副詞を足した一般動詞の肯定文を作り、その後でDo を文頭に足すか、Doesを文頭に足し、一般動詞のe/esを取れば完成。そして助動詞の文であれば、副詞を足した助動詞の肯定文を作り、その後で助動詞を文頭に持ってくれば完成となります。

be動詞の疑問文 = 肯定文を作り、be動詞を文頭に持ってくる。

<例> They are usually busy. (彼らはたいてい忙しいです)

↓

Are they usually busy? (彼らはたいてい忙しいのですか)

一般動詞の疑問文 = 肯定文を作りDoを文頭 / Does を文頭に足し一般動詞のs/es を取る

<例> She sometimes plays soccer. (彼女は、時々サッカーをします)

↓

Does she sometimes play soccer? (彼女は、時々サッカーをするのですか)

助動詞 (canなど) の疑問文 = 肯定文を作り、助動詞を文頭に持ってくる。

<例> He can also speak Japanese. (彼は、日本語も話せます / 彼も日本語が話せます)

↓

Can he also speak Japanese?

(彼は、日本語も話せるのですか / 彼も日本語が話せるのですか)

【否定文】

そして、否定文についてですが、これも文の種類に関係なく

まず副詞を足した形で肯定文をつくり、それを否定文にすれば完成

となります。つまり、be動詞の文であれば、副詞を足したbe動詞の肯定文を作り、その後でbe動詞の後に not を足せば完成。一般動詞の文であれば、副詞を足した一般動詞の肯定文を作り、その後で一般動詞のところを “do not (don't) + 一般動詞” あるいは “does not (doesn't) + 一般動詞の原形” の形にすれば完成。そして助動詞の文であれば、副詞を足した助動詞の肯定文を作り、その後で助動詞のあとに not を足せば完成となります。ただし以下のことは注意する必要があります。

1. not always は「いつも～するわけではない」という意味

not always は「いつも～しない」「全く～ない」という意味ではなく「いつも～というわけではない」という意味になる。

<例> He is not always busy. (彼はいつも忙しいわけではないです)

<彼はいつも忙しくない=×>

* 「全く～ない」は never を使って表す。

<例> He is never busy. (彼は忙しいことは全くないです)

2. 否定文では also は基本的に使われない

also は、基本的に否定文では使われない。否定文で「～も」という場合は文の最後に either を足すのが主流。

<例> I am not a teacher, either. (私も先生ではありません)

<I am not also a teacher. = ×>

be動詞の否定文 = 肯定文を作り be動詞の後に not を足す。

<例> They are usually busy. (彼らはたいてい忙しいです)

↓

They are not (aren't) usually busy. (彼らはたいてい忙しくないです)

一般動詞の否定文 = 肯定文の一般動詞を “do not (don't) / does not (doesn't) + 一般動詞原形” に。

<例> She usually gets up early. (彼女は、いつもは早くに起きます)

↓

She does not (doesn't) usually get up early. (彼女いつもは早くに起きません)

助動詞の否定文 = 肯定文を作り 助動詞の後に not を足す。

<例> You can always come here. (あなたはいつもここに来ることができます)

↓

You cannot (can't) always come here. (あなたはいつもここに来られるわけではないです)

Lesson 17-3 : 様々なフレーズ⑳

1. later = 後で

<例> I want to go there later. <私は後でそこに行きたいです>

[補足説明]

later は、副詞なので in / at / on などの前置詞は基本的につかない。

2. do ○○'s best = ○○の全力を尽くす / ○○のベストを尽くす

<例> I did my best. <私は、全力を尽くしました>

3. *be sure (about ~) = (~について) 確かである / (~について) 確信している *be = be 動詞

<例> Are you sure about that? <あなたは、それについて確かなのですか>

[補足説明]

疑問文の答えで「どうなのか定かでない (= I don't know よりも少し柔らかい表現)」という場合、I'm not sure. という表現がよく使われる。

<例> A: Does he like Japanese food? B: I'm not sure.
(A: 彼は日本食が好きですか B: 私は定かではありません)

4. in line = 一列になって

<例> People are waiting in line. <人々は列になって待っています>
Are you in line? <あなたは列に並んでいますか>

[補足説明]

列が断定されている場合は、in the line. と the を付ける場合もある。

<例> (列に割り込もうとしている人に対して)
Get in the line. (列に入って)

5. get to ~ = ~に着く / ~に到着する

<例> I want to get to the station by 3:00. <私は3時までに駅に着きたいです>

[補足説明]

get to は、文脈によっては「行く」と訳される場合もある。また、get to ~ だけでなく、get there (そこに着く) ということも可能。

<例> How do we get to the station? <私たちはどのように駅に行く (着く) のですか>
How can we get there? <私たちはどのようにそこに行ける (着ける) のですか>

Lesson 17-4 : want や try などに足される “to + 動詞の原形” (to 不定詞)

ここでは、want to eat や try to help など、動詞の後に足される “to + 動詞の原形” について学んでいきます。この形が分かれば(練習ですでに登場している) want to ~ が、なぜ「~したい」という意味のなるのかが、理解できると思います(ちなみに、“to + 動詞の原形” は「to 不定詞」と呼ばれます)。

まず、ポイントとなるのは、

ここで登場する「to 不定詞 (to 動詞の原形)」は「動詞すること」と主に訳される

ということです。例えば、

to eat = 食べること to help = 助けること

という意味になります。そのため「want to eat = 食べたい」「try to help = 助けようとする」と訳されるのですが、正しくは

want to eat = 食べることを求める = 食べたい
try to help = 助けるを試みる = 助けようとする

となります。to 不定詞とよくつながる動詞には、want / try / need などがあります。使い方の例を見ていきましょう。

- (1) want to ~ = ~したい (want = 求める / ほしい)
＜例＞ I want to eat this. (私はそれを食べたいです)
- (2) try to ~ = ~しようとする / ~しようと試みる (try = 試みる / 挑戦する)
＜例＞ They tried to go to school by bus. (彼らはバスで学校に行こうとしました)
- (3) need to ~ = ~する必要がある (need = 必要である)
＜例＞ Do I need to do my homework now? (私は私の宿題を今する必要があるのですか)
- (4) plan to ~ = ~することを計画する (plan = 計画する / 予定である)
＜例＞ We aren't planning to visit Kyoto. (私たちは、京都を訪ねる計画はしていません)
- (5) hope to ~ = ~することを望む (hope = 望む)
＜例＞ I hope to see you soon. (近いうちにあなたに会えることを望みます)

【作り方】

- ステップ 1 : 「動詞 + to 不定詞」の形になる場所を見つける。
- ステップ 2 : 「to 不指定」の部分を除いた文を完成させる。
- ステップ 3 : 動詞の部分「動詞 + to 不指定」に変える。

＜例 1 : 彼らはバスで学校に行こうとしました＞

ステップ 1 : 「動詞 + to 不定詞」の形になる場所を見つける。

「行こうとしました」 → tried to go

ステップ 2 : 「to 不指定」の部分を除いた文を完成させる。 → 彼は学校にバスで行きました。

_____ He went to school by bus.

ステップ 3 : 動詞の部分「動詞 + to 不指定」に変える。

_____ He tried to go to school by bus.

<例2：私は私の宿題を今する必要があるのですか>

ステップ1：「動詞 + to 不定詞」の形になる場所を見つける。

「する必要があります」 → need to do

ステップ2：「to 不指定」の部分を除いた文を完成させる。 → 私は私の宿題を今するのですか。

Do I do my homework now?

ステップ3：動詞の部分「動詞 + to 不指定」に変える。

Do I need to do my homework now?

【ポイント！】

「to 不定詞」と「動名詞」の違い

「なるほど。to 不定詞は『～すること』と訳されるのか・・・ん？確か動名詞（動詞ing）も『～すること』と訳されるんじゃないか？それなら、to 不定詞は動名詞と同じ意味ってこと？」と思われた方。するどいですね！素晴らしい！実は、「to 不定詞」は「動名詞」と同じような意味で使われることがあります。しかし、違いもあります。例えば、

つながることができる動詞が異なる

という違いがあります。例えば、上で紹介した want/need は、to 不定詞としかつながりません。そのため want eating/need doing とは基本的に言えません。一方で、enjoy/finish/practice などは、動名詞としかつながりません。

(1) enjoy ~ing = ～することを楽しむ (enjoy = 楽しむ)

<例> I enjoyed playing soccer. (私はサッカーを楽しむました)

(I enjoyed to play soccer. = ×)

(2) finish ~ing = ～するのを終わらせる (finish = 終わらせる)

<例> We finished eating. (私たちは、食べ終わりました)

(We finished to eat. = ×)

(3) practice ~ing = ～するのを練習する (practice = 練習する)

<例> They practiced playing the guitar. (彼らはギターを弾くのを練習しました)

(They practiced to play the guitar. = ×)

また「to 不定詞」「動名詞」の両方とつながれる動詞もあります。例えば like/start などがその例になります。

(1) like ~ing / like to ~ = ～することが好き

<例> 私はサッカーをすることが好きです。

I like to play soccer. / I like playing soccer.

(2) start ~ing / start to ~ = ~し始める

<例> 彼は英語の勉強を始めました。

He started to study English. / He started studying English.

Lesson 17-5 : 様々なフレーズ②

1. late (for ~) = (~に) 遅れる

<例> I was late for the meeting. <私は、会議に遅れました>

〔補足説明〕

「学校に遅れる」「授業に遅れる」「仕事に遅れる」という場合は、late for school / late for class / late for work のように school / class / work は、基本的に無冠詞になるので注意。

2. look ○○. = ○○に見える (○○には形容詞が入る)

<例> You look tired. <あなたは、疲れて見えます>

〔補足説明〕

look は「見る」という意味だけでなく「(～に) 見える / (～のように) 思われる」という意味もある。

3. on the other hand = (その) 一方で / これに反して

<例> He was happy. On the other hand, she was sad.

<彼は喜んでいました。一方で、彼女は悲しんでいました>

〔補足説明〕

文頭で On the other hand, の形でよく使われる。別の副詞句が文頭にある場合、その副詞句の前、または後に足される。

<例> 私たちは夏にサーフィンに行けます。一方で冬にはスキーに行くことができません。

We can go surfing in summer. In winter, on the other hand, we can't go skiing.

We can go surfing in summer. On the other hand, in the winter, we can't go skiing.

また、文₁, but on the other hand 文₂ という形でもよく使われる。

<例> I was tired, but on the other hand I needed to do my homework.

(私は疲れていた一方で、私は私の宿題をする必要がありました)

4. for a long time = 長い間

<例> We talked for a long time. <私たちは長い間話しました>